

尚徳中学校区の取組

1 心の教育・生徒指導

(1) 自尊感情を育む縦割り活動の充実

①他学年間交流活動

他学年間の交流を図るために、行事以外にも交流活動を行っている。そのひとつに、「中間テストの勉強方法を1年生に伝える」という活動がある。初めての中学校でのテストを前に、どのような勉強方法、どのような準備をするのが効果的なのかを、3年生がグループ内でまとめ、それを1年生の教室で紹介、掲示している。また、3年生のこの活動に対し、1年生はお礼の意味をこめ感想などをまとめ、それを3年生の教室に掲示し、紙面交流を行っている。この活動により、1年生は3年生をより身近な存在として感じることができ、また3年生にとっては、1年生からの感想から、「自分たちの活動が役に立っている。」という自己有用感を感じている。

②行事での縦割り活動

本校の体育祭（尚魂祭と呼ぶ）は、3年生から1年生までのクラスを縦割りチームに編成し活動を行っている。夏休み前から、3年生を中心にチーム別のミーティングを行い、チーム内でテーマや目指すものなどを共有し、共に活動する気持ちを確認しながら準備に取り組む。2学期の直前の準備期間には、毎日チーム別のミーティングを設定し、チーム意識を常に持たせながら活動をしている。

【主な取り組み】

○競技以外の場面（準備期間）

- ・チームパフォーマンス（チーム内の1年から3年全員が一緒に取り組む）
- ・立て看板の作成（3年）
- ・チームゼッケンの作成（2年）
- ・応援・パフォーマンス用うちわの作成（1年）
- ・パフォーマンス用ポンポンの作成（1年から3年）



☆進み具合をミーティングで確認しながら取り組む

○競技の場面（準備期間）

- ・他学年の競技に対して、上学年からの指導
- ・他学年の競技をチーム内の他学年がフォローする



3年生は、自分たちが計画立案を行い、チーム全体を動かすことにより、リーダーという自覚が生まれた。また、この活動での3年生の姿を見ることにより、1・2年生は「自分たちも先輩たちのようになりたい」という気持ちが芽生え、

次年度にそのおもいが繋がっていつている。

そして、この後の学年間の交流では、引き続き体育祭のチームをもとに行っている。その活動の1つが、文化祭準備期間に行う、縦割り合唱練習である。合唱練習後には、お互いに感想や思いを紙面交流させ、他学年からも応援されているという思いを強く感じる取り組みである。

(2) 幼児・児童・生徒の交流活動

本校での幼児・児童・生徒の交流活動は大きく分け次のものに分類される。

- | |
|-------------------|
| ① 【職場体験】での保・幼との交流 |
| ② 【保育園ベアーズとの交流】 |
| ③ 【3小学校との交流】 |



① 【職場体験】での保・幼との交流

本年度は2年生が、7月5日から7日の3日間行った。

保・幼へ体験に参加した生徒たちは、異年齢（特に年少）の子どもたちとの活動の中で、普段学校生活では見られない姿を見ることができた。また、生徒たちの顔つきから陰しさが消え、穏やかな気持ちで生活を送ることができている。

② 【保育園ベアーズとの交流】

本校では次に挙げる交流を行っている。

- | |
|-------------------|
| 1, 校内マラソン大会の応援 |
| 2, 部活動見学 |
| 3, 西部地区総体壮行会での応援 |
| 4, 保育実習（家庭科授業） |
| 5, 西部地区新人戦壮行会での応援 |
| 6, ベアーズ夏祭りボランティア |



生徒の感想には

「新しい自分を見つけることができました。」

「将来に活かしていけることばかりだったと思うので、この経験を忘れずに大切にしていきたいです。」

「子どもたちと関わっていくと、関われば関わるほど多くの子どもたちが寄ってきてくれてうれしかったです。」

「自分が幼児の気持ちをくみ取って自分から行動していくことは大切だと思いました。」

などのものが多く、普段中学校生活では感じられないものが感じられたことが分かる。

③【3小学校との交流】

本校では次に挙げる交流を生徒会を中心に行っている。

小学校出張あいさつ運動
小学校出張部活交流【長期休み中】
小学校出張交流会【12月】
4校交流会【2月】
小学校の卒業式に祝詞
卒業直前小学校訪問



これらの交流後の小学校児童の感想を見てみると

「早く中学校に行きたいです。」「入学しても大丈夫そうだと思います。」「中学校に早く行きたいなと思う気持ちが大きくなりました。」「授業を受けたり、グループで活動したりしたことで、少しずつ中学校に行くのが楽しみになりました。」など、肯定的な意見が多く見られ、中学校に対する安心感が交流以前より増したようだった。

また、今年度は鳥取県中部地震への義援金活動の取り組みを、中学生が3小学校へ出かけ小学生とともに実施した。

2 健康教育

(1) ノーメディアの実施

小中学校のノーメディアの期間を同じにすることで、兄弟間の時期の違いを排除し、家庭が一丸となってメディアと向き合う時間を設定している。そのため、ノーメディア期間は、中学校の期末テスト前1週間、各学期に1回設定している。小中学校の各家庭に同じ文書を配布し、以下の項目の中から1つ選択しチャレンジするように促している。

チャレンジコース

*メディアとは、テレビ、ビデオ、DVD、ゲーム、パソコン、スマホ、携帯電話です。

Aコース 食事中メディアを使用しない。

Bコース 夜、()時以降はメディアを使用しない。

*時間は各ご家庭でお決め下さい。

Cコース メディアは1日1時間以内。

Dコース 1週間に1日はメディアを使用しない。

Eコース 家に帰ってからメディアを使用しない。

Fコース A~Eコース以外で家族でチャレンジすることを決める。

()

3 学力向上

(1) 「学び合い」のある学習活動の充実（主体的な学習活動の創造）

本中学校区において、以前から「学び合い」のある学習活動を実践していく取り組みを行っていたが、「学び合い」とは「何を求めるのか?」「ゴールは何か?」など曖昧で各自、各校の解釈の中で捉えていた。それを改善し、「尚徳中学校区で取り組んでいる「学び合い」のある授業はこういうことです。」と、誰もが共通理解し、語れるようにした。「学び合い」の方法はいろいろ各校での違いはあるが、目指すところが共有され明確になり視点が定まったことは、とても大きな前進であるとする。

【尚徳中校区の「学び合い」のある学習活動とは】

- 何を求めるのか
 - 教師主導ではなく子ども同士がかかわり合いながら学びを深める
- ゴールは何か
 - 友だち同士で課題を解決する主体的な態度（みんなでわかって）
 - 思考・判断・表現力の育成（自分や集団の考えを深め広げる）



グループでの学び合い

(2) 「学習規律」について

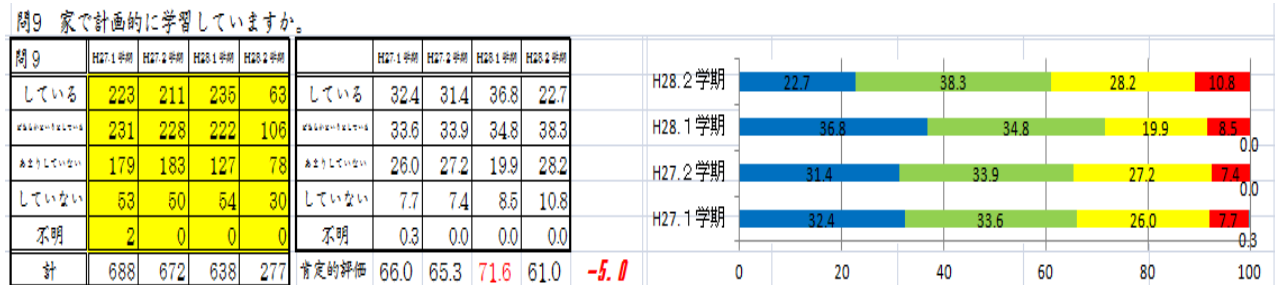
学習規律は子ども同士が学び合う授業を保障するためのものである。学習規律を3つに絞り重点化を行い校区で取り組むこととした。この3つについては各校で掲示物を作成し見える化を図っている

【中学校区全体で共通して取り組む3つの学習規律】

- ・授業の準備をしてチャイム着席を守ること
- ・名前を呼ばれたらはっきりと返事をする
- ・話す人の方を向いて（静かに）話を聴くこと ※（ ）内は上位目標

(3) 児童生徒の学びの状況の評価について → 学習状況アンケートの実施

年2回（7月・12月）校区で設定した共通10項目のアンケート調査を行い、結果を各校で分析すると共に中学校区全体の結果も分析し取り組みの確認や改善に活用している。



(4) 家庭学習の定着に向けた手立て

前述の(3)の結果でも分かるように本中学校区は家庭学習の定着が不十分であるという課題がある。そこで、中学校区で次のことに取り組み、改善を図っている。

①家庭学習の手引きの活用について

- ・家庭学習の手引きに書かれていることを指導のスタンダードとすることの再確認
- ・教室掲示用の家庭学習の手引き（低学年・中学年・高学年・中学生用）の作成
- ・小学校入学時での全児童への配布
- ・進級時の保護者と児童生徒への指導、啓発

②家庭学習の課題のあり方について

- ・授業とリンクした家庭学習の課題の提示（小中学校）
- ・家庭学習の状況を把握するためのチェックリストの作成（小学校）
- ・学習BINGOの作成と活用（小学校）
- ・週末課題の取り組み（中学校）

4 特別支援教育

(1) 特別支援学級児童生徒の交流会

毎学期に1回、中学校区の特別支援学級の児童生徒が「友情交流会」を実施している。

【尚徳中学校区「友情交流会」】

場所：各校の持ち回り

1学期：成実小 2学期：五千石小 3学期：尚徳中

時間：2時間程度

内容：学校探検・クイズ大会、クリスマス会、
調理実習（お菓子作り）、各校のだしもの



(2) 中学校区特別支援学級担任連絡会の実施

適切な生徒への支援や指導を行うため、年4回意見交換や情報交換を行っている。第1回は5月中旬（中学校区教育推進協議会総会）、第2回は夏季休業中（校区夏の研究会）第3回は2学期末（校区交流授業研究会）第4回は年度末である。

また、校区交流授業研究会では特別支援学級の授業を公開し、授業研究も兼ねて行っている。

(3) 学びの共同体理論に基づいた「学び合い」のある授業づくり

各教科で授業の流れを共通化するとともにグループでの学びを取り入れている。

【授業展開】めあての提示→共有課題の提示（グループでの学び・全体での共有）

→ジャンプ課題の提示（グループでの学び・全体で共有）

5 中学校区独自分野（人権教育・仲間づくり）

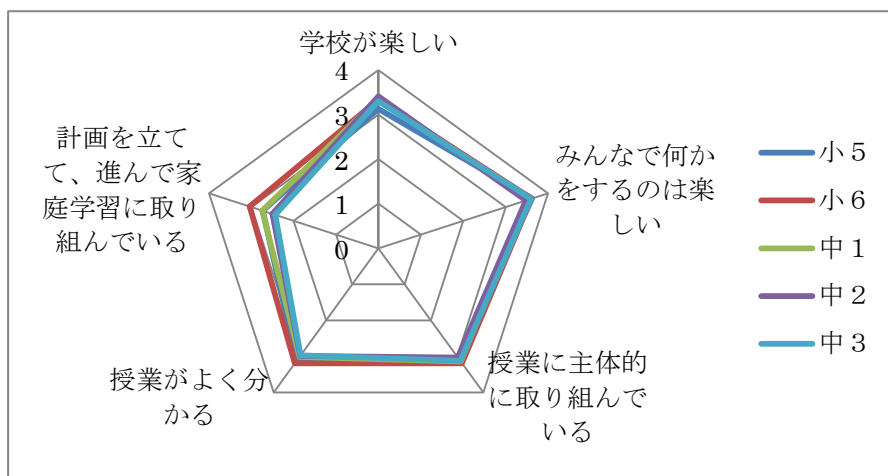
(1) 自尊感情を育む「ほめ合い認め合う」場の設定
終わりの会の「班の一日の振り返り」の中で、班内ではがんばっていた人や支えてくれた人など、その日キラリと輝いていた人やその行動を、お互いに認め合う活動。（今日のキラリ）

活動のマンネリ化が課題だったが、今年度は各学年でやり方を工夫し、取り組むことができた。



(2) 自尊感情アンケートの実施・分析・取り組みの見直し

毎学期に1回、自尊感情アンケートを実施している。集計終了後校内研修会実施し、学級ごとに具体的方策を検討。児童・生徒の理解、また取り組みの見直しにつなげている。



※右のグラフは同じ母集団（現3年生）の過去5年間の変化を表したもの。

設問25項目のうち5項目をピックアップし、校区教育推進協議会で分析を行った。

(2) 校区「人権教育15年プラン」の完成

校区の教職員にアンケートを行って校区の子ども達につけたい力や課題を出し合い、「尚徳中学校区 人権教育に関する育成ビジョン」を作成した。

育成ビジョンをもとに、幼稚園・保育園の人権教育担当者も含めての人権教育主任会を年8回開催し、育てたい力を明確にし、各園・各校での具体的な取り組みについて共通理解を図りながら、校区「人権教育15年プラン」を完成させた。

